

疫学（臨床）研究実施についてのお知らせ

大阪市立大学医学部附属病院

薬剤部

冢瀬 諒

【研究課題名】

非小細胞肺癌術後補助化学療法における Cisplatin+Vinorelbine 療法の
Relative Dose Intensity低下に及ぼす影響因子の解析

【研究期間】

2016年9月30日 ～ 2017年3月31日

【研究の意義・目的】

非小細胞肺癌術後補助化学療法は、切除された肺がんの局所再発および、遠隔転移を防ぐ上で、非常に重要である。非小細胞肺癌の術後補助化学療法として用いられる Cisplatin+Vinorelbine 療法は、種々の有害反応により、減量や中止を必要とされ、Relative Dose Intensity (相対治療強度、以下、RDI)が低下する症例が少なくない。RDI の低下は、治療効果の減弱、Quality of life の低下等につながる事が予想される。そのため、RDI の低下要因を把握し、事前に対応を行うことは临床上非常に有用である。しかしながら、RDI 低下に及ぼす影響因子はこれまで明らかにされておらず、RDI 低下を事前に予測することは困難である。そこで、非小細胞肺癌術後補助化学療法における Cisplatin+Vinorelbine 療法の RDI 低下に及ぼす影響因子を明らかにする目的で本研究を行う。

【研究の方法】

- ① 大阪市立大学医学部附属病院の情報検索システムを用いて、対象患者を抽出し、患者背景、RDI、併用薬、臨床検査値、悪心、嘔吐、発熱性好中球減少症等の有害反応発現状況を調査する。
- ② RDI が 50%以上の群と 50%未満の群を比較し、RDI 低下に及ぼす影響因子を検討する。

【個人情報の取り扱い】

個人が特定できる情報は削除し、連結可能匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には十分注意を払う。また、本研究結果について、個人情報を特定できないようにし、学会、論文で発表を行うことをご了承ください。

【研究組織】

研究責任者：冢瀬 諒

実施分担者：高橋 克之、永山 勝也

本研究について、ご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。
また、ご自身やご家族の情報が研究に使用されることについて、ご了承いただけない場合には、研究の対象と致しませんので、下記の連絡先までお申し出下さい。

【本研究に関する問い合わせ先】

研究責任者：冢瀬 諒

住所：大阪府大阪市阿倍野区旭町 1-5-7

電話：06-6645-2277

FAX：06-6646-0373

E-mail：inose.ryo@med.osaka-cu.ac.jp